

「みえリニア戦略プラン（仮称）」最終報告（案） 概要

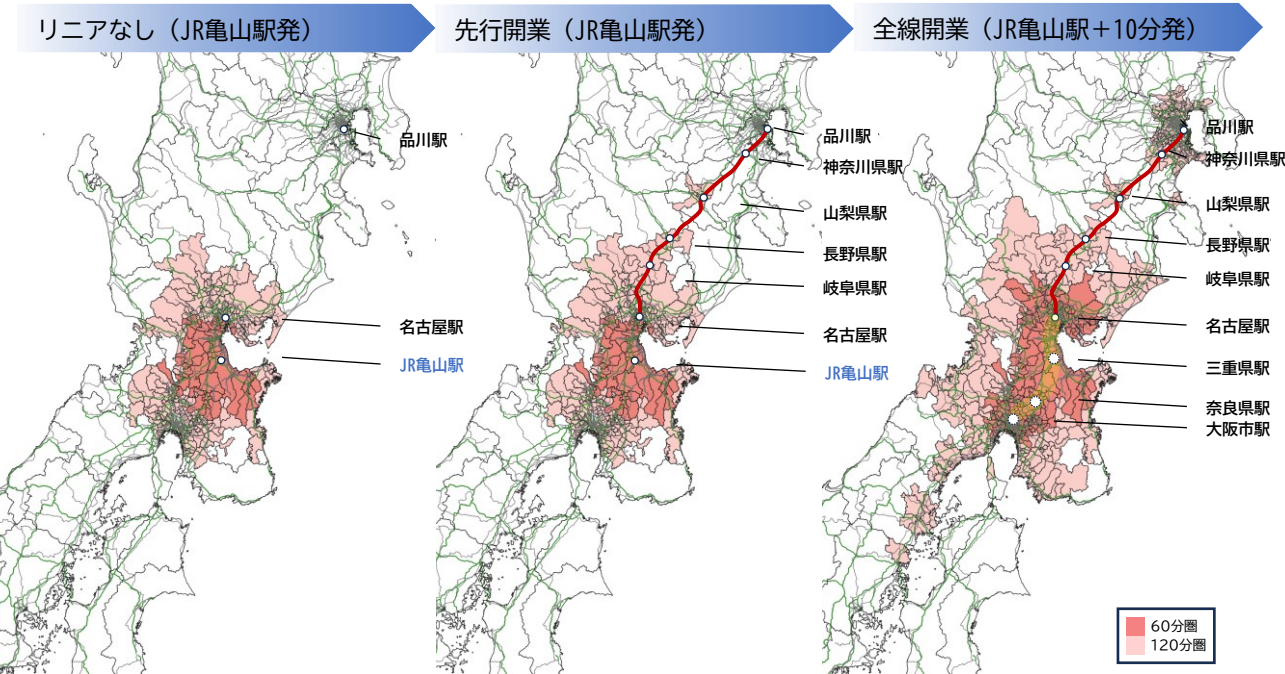
1 「みえリニア戦略プラン（仮称）」策定の趣旨

- リニア中央新幹線は、東京－名古屋－大阪間の時間距離の大幅な短縮により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」を形成し、わが国の新たな国土の大動脈として経済社会を支える国家的プロジェクトです。
- 「三重県リニア基本戦略」で示した3つの戦略と、戦略を支える基盤づくりにおいて、「みえリニア戦略プラン（仮称）」では、先行開業及び全線開業のインパクトを県内全域に広げる取組を検討し、リニア開通後の「めざす三重の姿」の実現をめざします。

2 リニアがもたらすインパクト

◆リニア開業によるリニア三重県駅（JR亀山駅）起点の時間圏の広がり

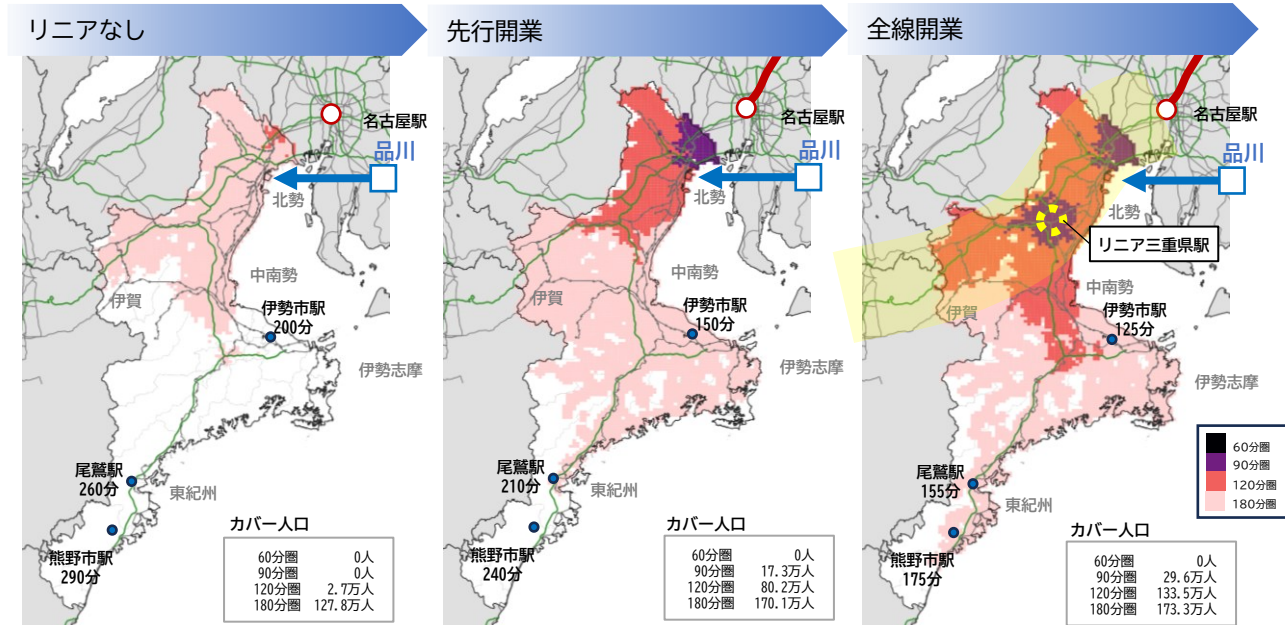
- リニア三重県駅の120分圏は先行開業により名古屋以東に拡大、全線開業により大阪以西に拡大
- リニア三重県駅の120分圏人口は、リニアなしの約2,800万人に対して約2～3倍の約6,000万人に拡大



出典：「全国総合交通分析システム（NITAS）ver3.1」より作成。対象とする交通モードは鉄道・道路とし、リニアなしは2021（令和3）年3月時点のネットワーク、先行開業と全線開業は国土交通省及び各県が取りまとめた「新広域道路交通計画」（2021（令和3）年3月）に記載のある高規格道路（供用中、事業中、調査中）を含めて算出。

◆リニア開業による品川起点の時間圏の広がり

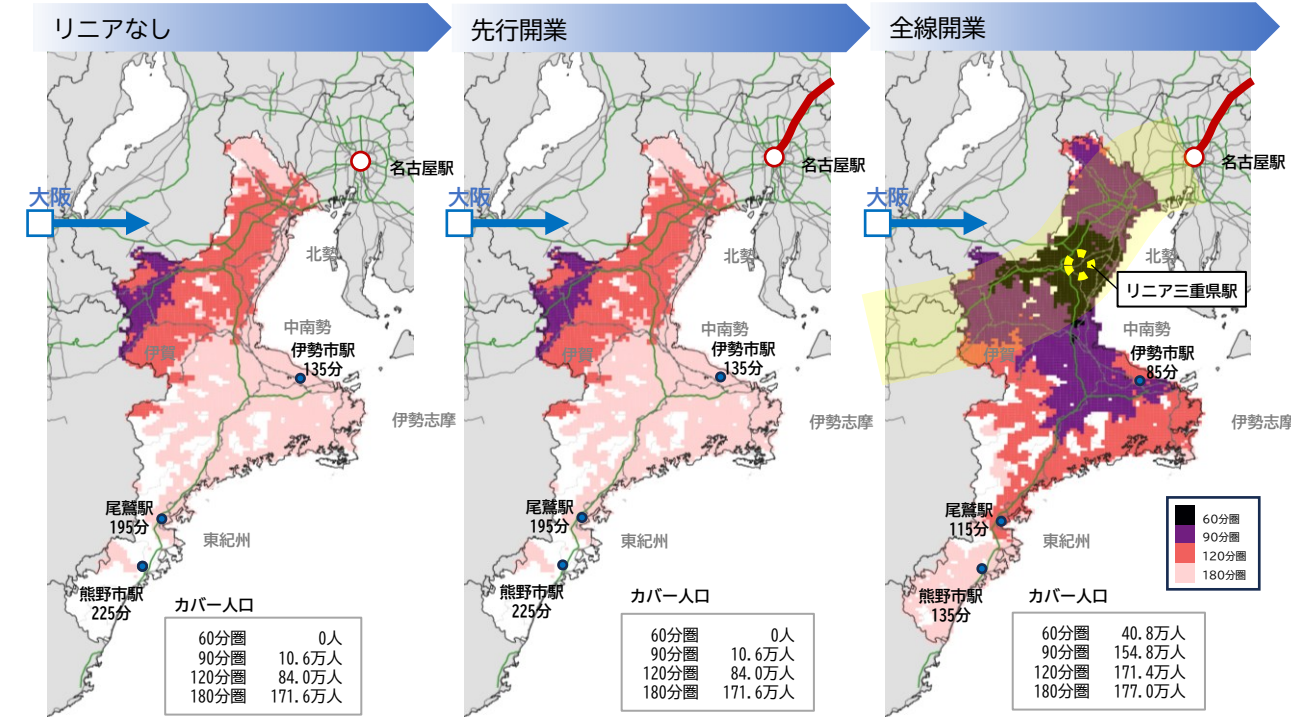
- 品川起点の120分圏に含まれるカバー人口は、リニアなしは約2.7万人、全線開業は約133.5万人に拡大



出典：「全国総合交通分析システム（NITAS）ver3.1」より作成。対象とする交通モードは鉄道・道路とし、リニアなしは2021（令和3）年3月時点のネットワーク、先行開業と全線開業は国土交通省及び各県が取りまとめた「新広域道路交通計画」（2021（令和3）年3月）に記載のある高規格道路（供用中、事業中、調査中）を含めて算出。人口は令和2年国勢調査の人口を参照。なお、上記時間圏図内の伊勢市駅、尾鷲駅、熊野市駅に記載している時間は鉄道利用のみの時間を表示。

◆リニア開業による大阪起点の時間圏の広がり

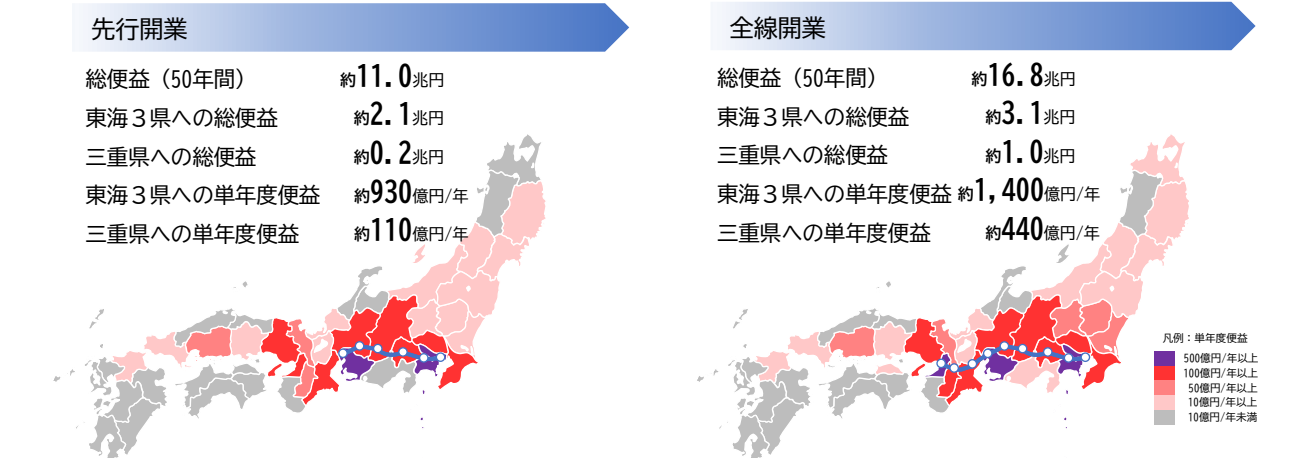
- 大阪起点の120分圏に含まれるカバー人口は、リニアなしは約84.0万人、全線開業は約171.4万人に拡大



出典：「全国総合交通分析システム（NITAS）ver3.1」より作成。対象とする交通モードは鉄道・道路とし、リニアなしは2021（令和3）年3月時点のネットワーク、先行開業と全線開業は国土交通省及び各県が取りまとめた「新広域道路交通計画」（2021（令和3）年3月）に記載のある高規格道路（供用中、事業中、調査中）を含めて算出。人口は令和2年国勢調査の人口を参照。なお、上記時間圏図内の伊勢市駅、尾鷲駅、熊野市駅に記載している時間は鉄道利用のみの時間を表示。

◆リニアの経済効果

- 経済効果は、時間短縮が大きく発現すること、産業・経済集積が大きい地域において大きい
- 東海3県（岐阜県、愛知県、三重県）では経済効果の全体の約2割を得ることが見通されている



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が「全国総合交通分析システム（NITAS）ver3.1」より求められた地域間所要時間を用いて試算したもの。

3 リニアとともにめざす三重の姿

- 新たな玄関口から始まるこれからの時代には選ばれる三重となるために3つの姿を実現

①三重の豊かさを生かした新たなライフスタイルが創出されている

圧倒的な移動時間の短縮と先進的な技術により、三重の豊かさと大都市圏の多様さを手に入れるリニア時代の新たなライフスタイルを創出

②県内交通ネットワークの形成による観光・ビジネス交流が活発化している

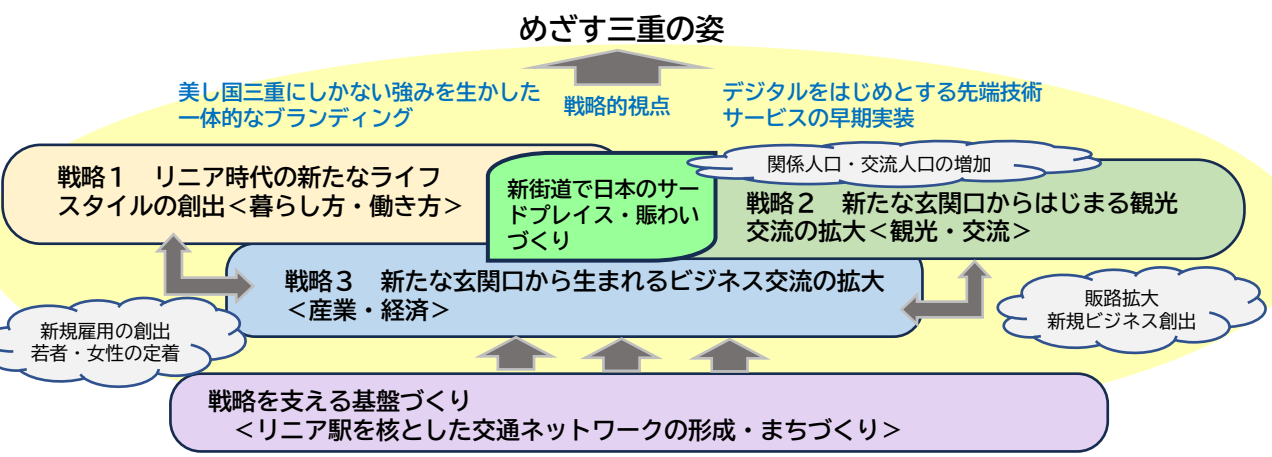
実用化が進む次世代交通に対応したリニア三重県駅と地域交通拠点とが効率的に結ばれ、県内外の観光・ビジネス交流が飛躍的に発展

③人々の「癒やしの空間」として存在感を示している

新たな玄関口の魅力と県内各地の豊かな魅力とが繋がることで、三重にしかない暮らしや、働き方、来訪スタイルを実現

4 めざす三重の姿に向けての3つの戦略

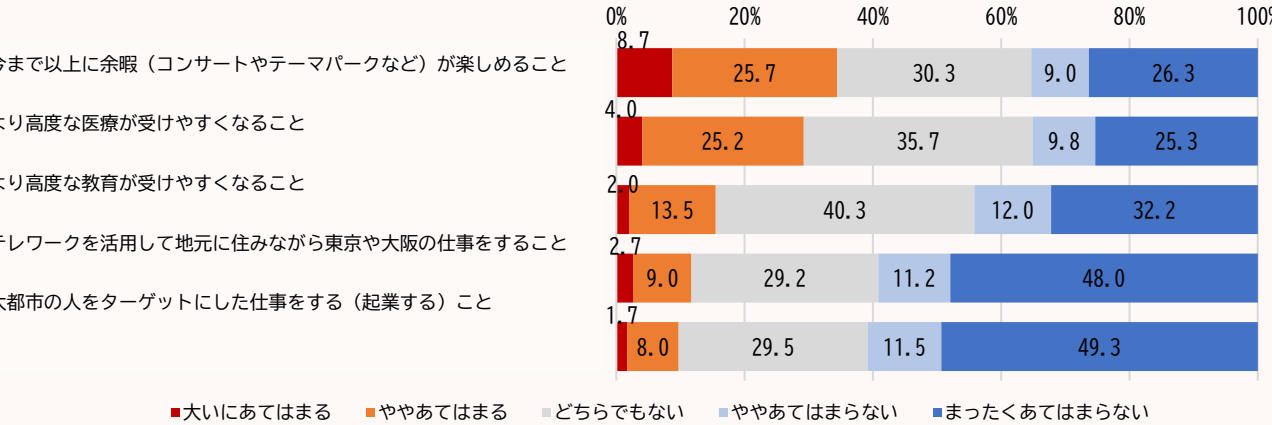
戦略の位置づけ 戦略の取組においては、行政、関係団体や交通事業者などさまざまな主体における状況を踏まえ、民間事業者の採算性の確保など、経営の自主性を尊重しながら、具体化に向けて検討を進めます。



戦略1 リニア時代の新たなライフスタイルの創出

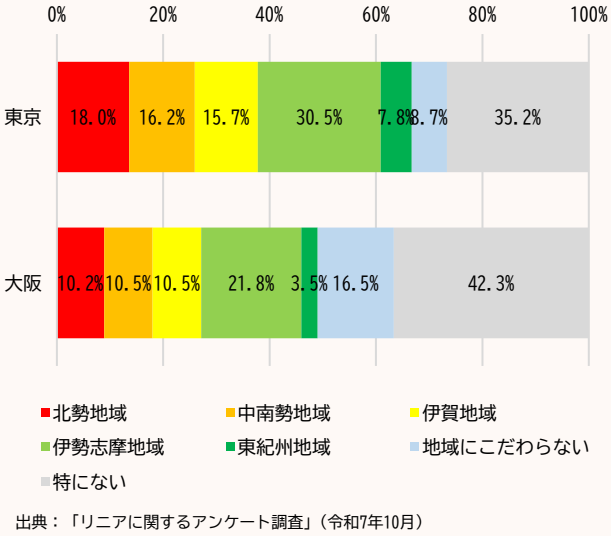
◆三重県民のリニアのあるライフスタイルへの関心

「今まで以上に余暇(コンサート等)が楽しめること」の割合が高くなっています。



◆三重県に訪れた経験のある大都市住民の人が思う「一度は住んでみたい県内の地域」

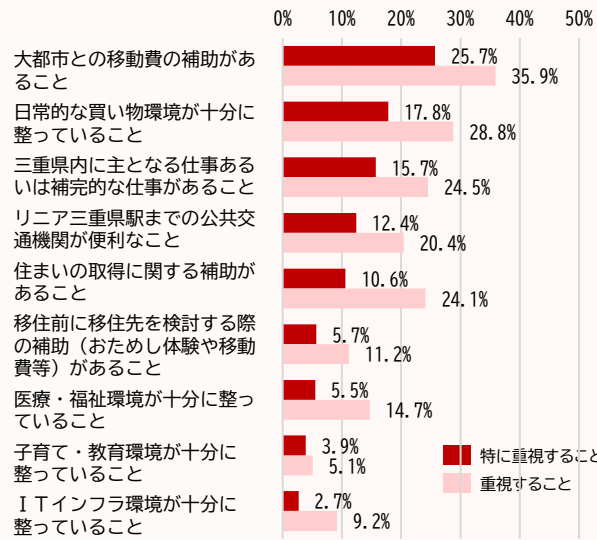
東京や大阪ともに「伊勢志摩地域」の割合が高い。次いで、東京は「北勢地域」、大阪は「地域にこだわらない」の割合が高くなっています。



出典：「リニアに関するアンケート調査」（令和7年10月）

◆大都市住民が移住を検討する際に重視すること

「大都市との移動費の補助があること」の割合が最も多くなっています。



戦略・取組検討のための「リニアに関するアンケート調査」の実施

【目的】移動実態やリニア駅に接続する交通手段ニーズを把握するために実施

【実施方法】WEBモニターを活用したWEBアンケート調査

【実施日】2025年10月実施

【対象者とサンプル数】

県民600サンプル

大都市住民：東京400サンプル、大阪400サンプル※

※大都市住民は過去3年間に三重県来訪経験のある人、リニア駅設置地域を踏まえ、東京は東京23区、横浜市、川崎市、相模原市、大阪は大阪市を対象とした

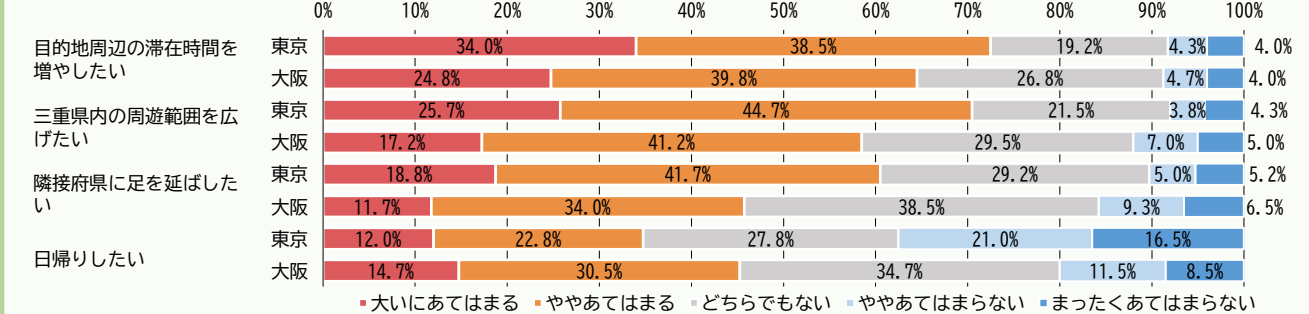
【設問】

- ・三重県民に対する直近の東京・大阪方面の交通手段
- ・三重県民に対するリニア全線開業への期待・興味
- ・三重県民に対するリニア三重県アクセスに対するニーズ
- ・東京・大阪住民に対する三重県への来訪目的
- ・東京・大阪住民に対するリニア三重県駅からの県内各地アクセスニーズ
- ・東京・大阪住民に対する滞在型広域観光の取組に関するニーズ
- ・東京・大阪住民に対するリニアを生かした三重県移住意向

戦略2 新たな玄関口からはじまる観光交流の拡大

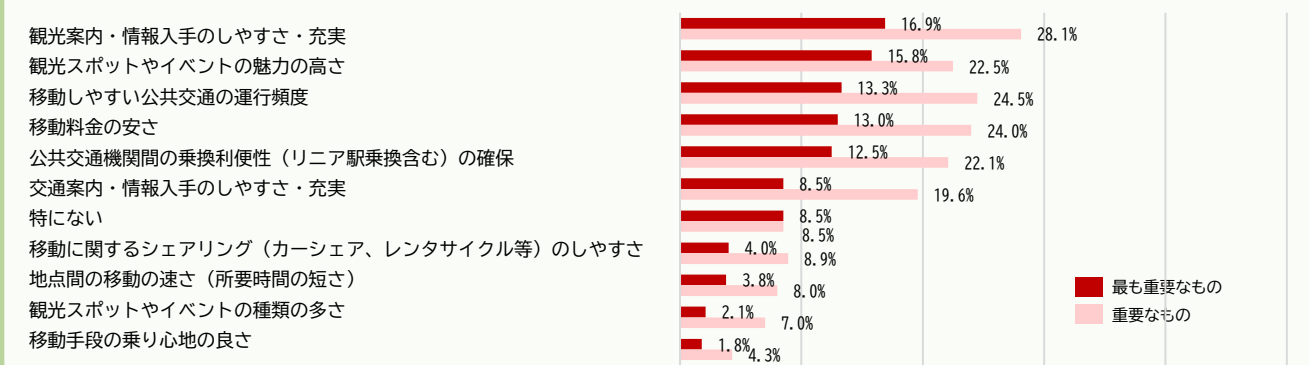
◆県外大都市住民における時間短縮による時間の使い方ニーズ

東京・大阪の住民とともに、「目的地周辺の滞在時間を増やしたい」「三重県内の周遊範囲を広げたい」において、6割以上の人が当てはまると回答しています。距離的に近い大阪の住民は「日帰りしたい」と回答した人の割合が東京の住民よりも高い結果となっています。



◆県外大都市住民における滞在型観光に必要な取組ニーズ

滞在型観光に必要な取組ニーズとして、最も重要なものは、「観光案内・情報入手のしやすさ・充実」、「観光スポットやイベントの魅力の高さ」の順に割合が高くなっています。

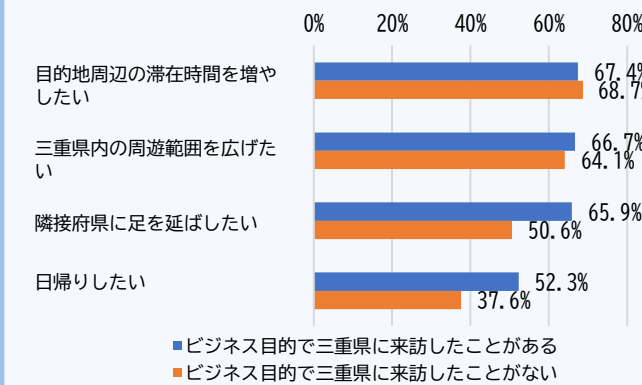


出典：「リニアに関するアンケート調査」（令和7年10月）

戦略3 新たな玄関口から生まれるビジネス交流の拡大

◆大都市住民のビジネス目的三重県来訪有無別のリニア利用による短縮時間の使い方ニーズ

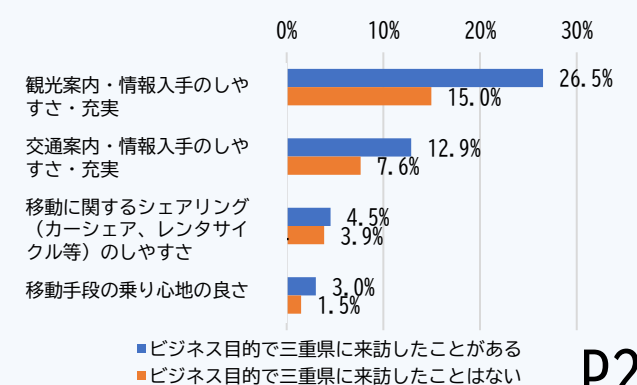
ビジネス目的来訪者においては「隣接県に足を延ばしたい」「日帰りしたい」の回答も半数みられ、ビジネス視点から県内滞在させる取組が重要です。



出典：「リニアに関するアンケート調査」（令和7年10月）

◆大都市住民のビジネス目的三重県来訪有無別の滞在時間を増やす取組へのニーズ

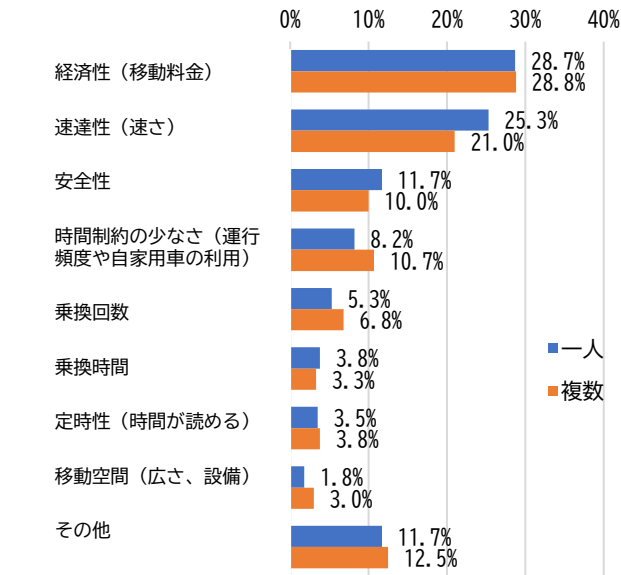
ビジネス目的で三重県に来訪したことがある人は、来訪したことがない人と比較して、「観光案内や情報入手のしやすさ」「交通案内・情報入手のしやすさ」といった滞在時間を増やす取組を重視する傾向が見られます。



5 戦略を支える基盤づくり

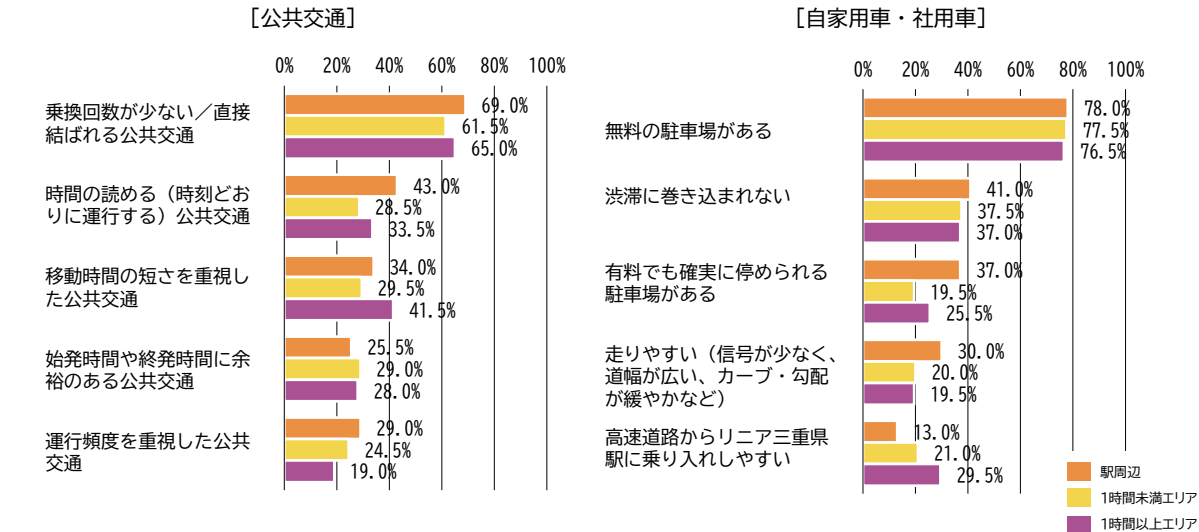
◆県民のリニア三重県駅とのアクセスで重視すること

「移動料金」の割合が最も高く、一人で移動する場合は「速さ」を重視する割合も高い。複数で移動する場合は、「時間制約の少なさ」や「乗換回数」の割合が一人で移動する場合に比べて高くなっています。



◆県民のリニア三重県駅に行く際に重視すること（交通機関別）

公共交通アクセスでは「乗換回数が少ない／直接結ばれる公共交通」、自家用車・社用車アクセスでは「無料の駐車場がある」の割合が高くなっています。

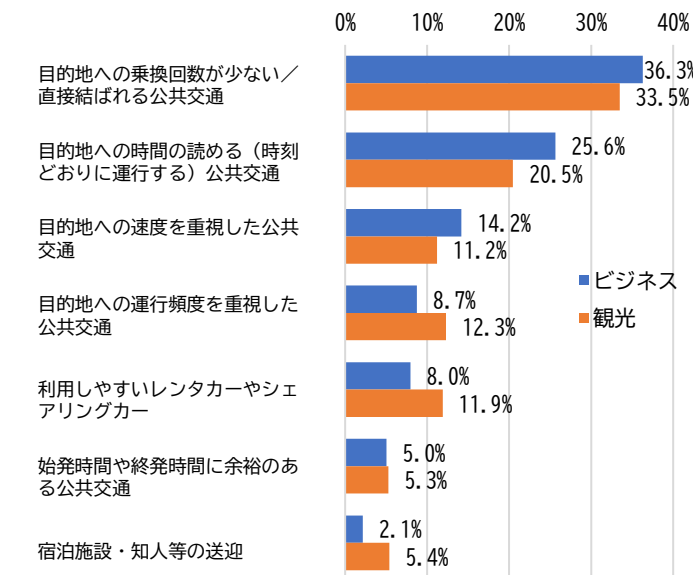


※凡例のエリア区分は、リニア三重県駅のある亀山市からの時間距離で整理したもので以下のとおりとなる。

駅周辺：津市、鈴鹿市、亀山市
1時間未満エリア：四日市市、松阪市、桑名市、名張市、いなべ市、伊賀市、木曽岬町、東員町、菟野町、朝日町、川越町、多気町、明和町、大台町
1時間以上エリア：伊勢市、尾鷲市、鳥羽市、熊野市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町

◆大都市住民のリニア三重県駅から目的地への移動手段の期待

大都市住民のリニア三重県から目的地への移動手段は「乗換回数が少ない／直接結ばれる公共交通」「時間の読める公共交通」に期待する割合が最も高くなっています。



出典：「リニアに関するアンケート調査」（令和7年10月）

（１）リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成

取組１ 新たな玄関口としての駅前交通ターミナル整備

① 交通拠点整備

- リニア三重県駅と二次交通の直結性を重視した公共交通の乗換利便性の向上
- バスターミナル、賑わい空間、ウォーカブルな空間などの整備
- 次世代モビリティ導入空間やシェアモビリティへの対応を可能とした空間の確保

② 駐車場の整備

- リニア利用者向け駐車場の整備
- ※整備にあたっては駅至近は有料、周辺は無料といった配置を検討

取組２ 新たな玄関口とつながる道路ネットワークの整備

① 「地域交通拠点」間の高規格道路等の充実

- 高規格道路のネットワーク強化（新名神高速道路、近畿自動車道紀勢線、東海環状自動車道、四日市インターアクセス道路、鈴鹿亀山道路、名神名阪連絡道路、伊勢志摩連絡道路、四日市湾岸道路など）
- 主要幹線道路の整備（国道１号（北勢バイパス、関バイパス）、国道２３号（中勢バイパス、鈴鹿四日市道路）など）

② リニア三重県駅と高速道路を直結する道路整備

- 道路ネットワークとのダイレクト接続
- 道路を利用した公共交通の定時性を確保するための主要幹線道路の整備

取組３ 鉄道ネットワークの強化・充実

① 既存鉄道の利便性の向上

- 交通系ＩＣカード化やタッチ決済、タッチレスやオンライン認証乗車等の可能エリアの拡大や導入
- 複数路線鉄道駅の乗換利便性の向上
- 鉄道間の乗り継ぎダイヤの調整

② 既存鉄道の速達化や多頻度運行

- 特急運行・直通運行による速達化
- 需要創出による多頻度運行

③ 新駅の設置もしくは新たな交通手段の検討

- リニア駅・鉄道駅乗換利便性の向上
- 鉄道ネットワークを活用した直通化・高速化

取組４ 新たな二次交通ネットワークの形成

① リニア発着に合わせた定時性のある交通ネットワークの構築

- リニア発着にあわせた接続（タイヤ、時間の読める道路など）
- 地域交通拠点とのシャトルバス運行

② 高速バス路線開設

- 名古屋駅直通バスの運行拡充（先行開業時）
- 高速バス路線の充実

③ 地域交通拠点周辺の次世代モビリティ・システムの導入

- 地域交通拠点から観光拠点までの電動キックボード等の次世代モビリティの導入
- 次世代モビリティに係る施設整備

④ 地域交通拠点エリアを連結する自動運転モビリティの導入

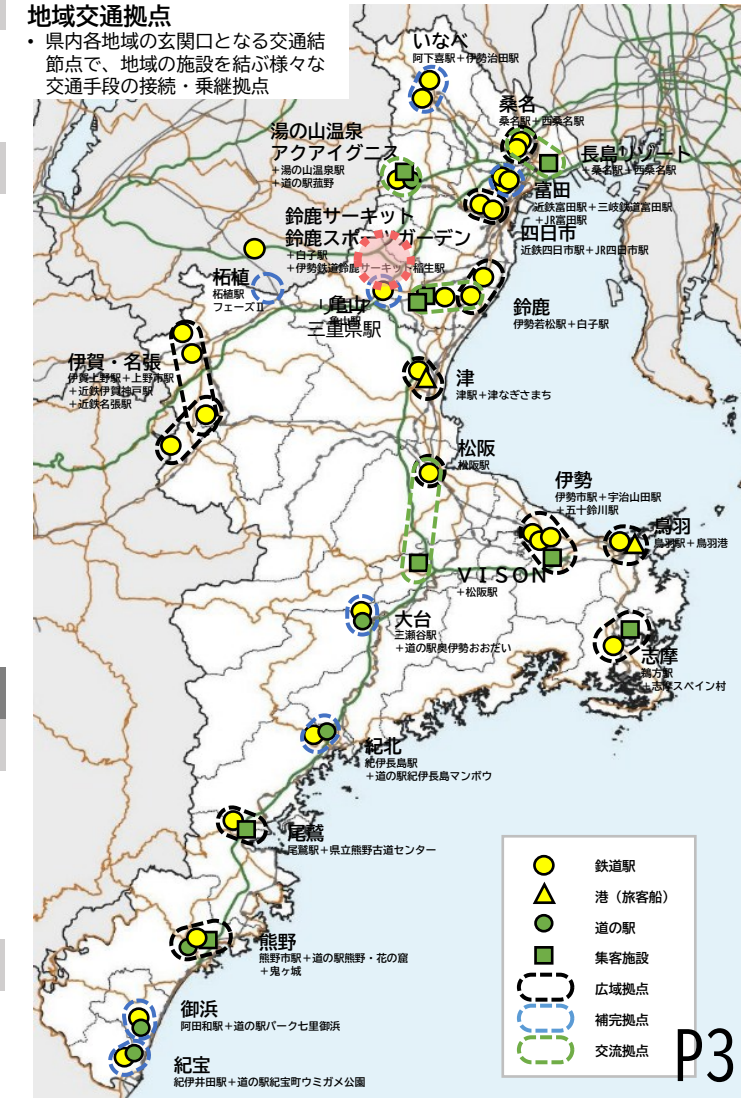
- 地域交通拠点と観光拠点間や近接する拠点間等の自動運転技術の導入

⑤ 太平洋岸自転車道やサイクルトレインの環境整備や機能の充実

- 道路環境、サイクルステーションなどの充実

地域交通拠点

- 県内各地域の玄関口となる交通結節点で、地域の施設を結び様々な交通手段の接続・乗継拠点



（２）リニア三重県駅を核としたまちづくり

取組１ 魅力あるリニア三重県駅の空間のデザイン

① 駅・駅周辺の交通拠点機能・ゲートウェイ機能・交流促進機能の整備

- 交通拠点機能の整備（駅前広場機能、次世代モビリティに必要な設備等）
- ゲートウェイ機能の整備（ファンストップ予約・決済サービス、イベントスペース等）
- 交流促進機能の整備（物販・飲食施設、情報発信やビジネス交流の拠点となる機能）

② 三重県らしいデザインの導入

- 「美し国」らしいデザインの導入

③ 整備・運営手法・役割分担の検討

- 民間企業などの参入意向なども踏まえた検討
- 民間企業からの意見を参考にした運営手法の検討

取組２ リニア駅周辺及び隣接する地域を含めた広域のまちづくりの検討

① 周辺地域の市街地にある施設との適切な機能連携

- 周辺地域の公共・公益施設、商業・業務施設等との適切な機能連携の検討

② 広域的なまちづくりの実現に向けた都市計画

- 各都市計画区域マスタープラン間の広域調整
- 無秩序な開発防止に向けた特定用途制限地域の指定などの規制手法の検討
- 周辺地域とのバランスを踏まえた適切な土地利用の方向性の検討

取組３ リニアを生かした防災上の効果の最大限の発揮

① 災害時における他地域との連携強化

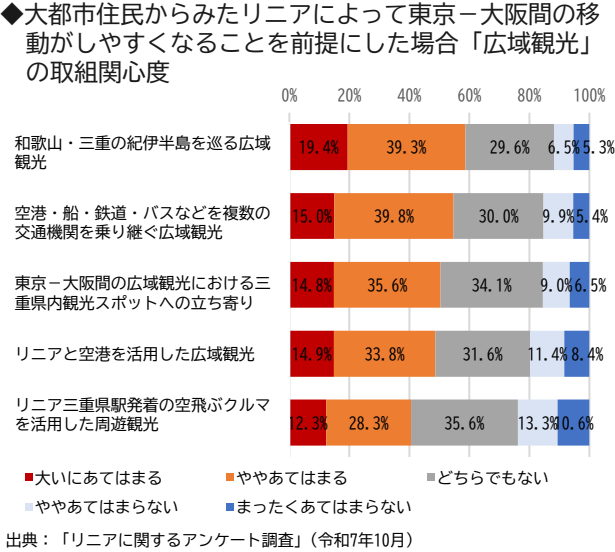
- 県地域防災計画及び市町地域防災計画をはじめとする関連計画との整合・調整
- 大規模災害時等の広域的かつ円滑な支援体制及び受援体制の強化・構築の検討

全線開業を見据えた取組として、リニア三重県駅を核とした交通ネットワークの形成や広域のまちづくりを「みえのり・デザイン」リーディングプロジェクト（フェーズⅡ）と位置づけ

リニア三重県駅を核とした広域観光モデル創出プロジェクト

東京－名古屋－大阪間の大都市間を巡る観光の流れにおいて、三重県内や紀伊半島を立ち寄る広域観光を促します。

- 東京－大阪間を巡るインバウンド客の呼び込み
 - ✓ 広域移動バスの提供
 - ✓ リニア三重県駅から県内移動を支える交通手段の確保
 - ✓ 県内の既存観光資源の活用
- リニア三重県駅を利用した紀伊半島一周の観光軸の形成
 - ✓ リニア三重県駅との移動手段の確保
 - ✓ 広域を周遊する観光列車の運行検討
 - ✓ 観光軸沿線地域の既存資源の活用
 - ✓ 観光軸沿線地域の機能分担（宿泊、食事、体験）
 - ✓ 熊野古道伊勢路の認知度の向上
 - ✓ 速達列車（例えば特急南紀・快速みえ等）のリニア三重県駅付近発着検討
 - ✓ 和歌山県との連携による情報発信



◆東京－大阪間のゴールデンルートからの立ち寄りによる広域観光



◆和歌山・三重の紀伊半島を巡る広域観光



リニア三重県駅を核とした県内周遊を促す多モードネットワーク強化プロジェクト

既存の交通ネットワークの活用と次世代モビリティの導入を組み合わせ、リニア利用者や地域住民の県内移動の選択肢を増やし、各種活動を支えるとともに、交流を活性化します。

- リニア三重県駅発着の需要に応じたモビリティの導入
 - ✓ 利用目的・需要に応じた交通モードの検討（高速バス型／特急鉄道型／空飛ぶクルマ型）
- 地域を跨るカーシェアや自動運転技術の導入
 - ✓ 広域カーシェア導入検討
 - ✓ 自動運転技術導入検討
- 広域拠点・補完拠点・交流拠点における自動運転技術やパーソナルモビリティ（シェアサイクルや電動キックボード等）の導入
 - ✓ 自動運転技術導入検討
 - ✓ パーソナルモビリティ等の導入検討



リニア三重県駅を核とした広域まちづくりプロジェクト

県内外から訪れる人の三重県の玄関口として各種需要に応じた独自性のある駅機能やデザインを備えるとともに、リニアがもたらす防災上の効果を最大限発揮させる、災害に強いまちづくりを検討していきます。

魅力あるリニア三重県駅の空間のデザイン

① 駅・駅周辺地域に導入する機能

- 【交通拠点機能】
 - 駅前広場機能：バスターミナルや送迎バースなど。ウォークアブルな空間などの検討
 - 電気自動車などの次世代モビリティへの対応：蓄電、エネルギー補充機器の検討
 - 待ち時間をストレスなく過ごせる：託児機能、休憩スペースなど
 - 高速通信ネットワークなどのデジタルインフラ
- 【ゲートウェイ機能・次世代サービスの提供】
 - 県内全域を対象とした総合案内機能（ワンストップ予約・決済等の提供、AIコンシェルジュ等）
 - 県内の各自治体を紹介、体験できるスペース：ブースやイベントスペース、コンベンション機能
- 【交流を拡大させる機能】
 - 県内の特産品が購入できる物販施設、味わうことができる飲食施設
 - 地域産業の情報発信やビジネス交流の拠点となる機能の整備

② 三重県らしいデザイン

- 【「美し国」らしいデザインの検討】
 - 地域の工芸（国指定伝統工芸品：伊勢型紙、伊賀くみひも、四日市萬古焼、鈴鹿墨）や特産品（真珠、尾鷲ヒノキ、那智黒石等）、シンボル（伊勢神宮、熊野古道等）を想起させるデザインのあり方を検討し、駅を利用する方々に「美し国みえ」の印象を強くアピールできるようにします。

③ 整備・運営手法・役割分担の検討

- 物販や飲食施設をはじめとする各施設の整備については、民間企業などの参入意向なども踏まえた検討を進めます。
- 運営手法についても民間企業からの意見を参考にしながら、検討を進めます。

リニア駅周辺及び隣接する地域を含めた広域のまちづくりの検討

① 周辺地域の市街地にある施設との適切な機能連携

- リニア三重県駅に必要な機能のうち、サービス機能（商業、宿泊など）や産業・研究開発機能については周辺市（亀山市、鈴鹿市、津市）の市街地にある公共・公益施設、商業・業務施設等との適切な機能連携をはかっていきます。

② 広域的なまちづくりの実現に向けた都市計画に関する留意事項

- 三重県では各都市計画区域毎にまちづくりの方針となる都市計画区域マスタープラン（亀山、鈴鹿、津など）を策定しています。
- リニア開業により、リニア三重県駅周辺及び隣接する地域に及ぼす影響が大きいため、各都市計画区域マスタープラン間での広域調整が必要となります。
- 亀山市においては、非線引き都市計画区域となっており、用途が指定されていない白地地域に駅が整備される可能性があります。リニア三重県駅周辺のまちづくりの方針が決定するまでの無秩序な開発を防止するため、特定用途制限地域の指定などの規制手法を検討していきます。
- 隣接する津市、鈴鹿市においては、津・鈴鹿都市計画区域の市街化調整区域等での開発圧力が高まる可能性があります。
- 周辺地域とのバランスを踏まえながら、適切な土地利用の方向性を検討していきます。

リニアを生かした防災上の効果の最大限の発揮

① 災害時における他地域との連携強化

- 県地域防災計画及び市町地域防災計画をはじめとする各計画との整合性をはかっていきます。
- リニアが持つ人員の高速かつ大量輸送力を生かし、沿線の自治体や防災関係機関等間で、大規模災害時等の広域的かつ円滑な支援体制及び受援体制の強化・構築を検討していきます。